



5223

2752

Handwritten Japanese text in a vertical column, likely a document or letter. The text is written in a cursive style (sōsho) and is enclosed in a rectangular border. There are several red seals (hanko) visible: one at the top left, one at the top right, and one at the bottom right. The paper is aged and shows some staining.



114  
A 2553

意見書

大勢

變今々政黨内閣ハ憲政黨ニ依リテ組織  
 セラレ五憲國民タル者誰カ之ヲ慶セガラシマ  
 蓋シ憲政完備ノ實現内閣ニ依リテ舉行セラレ  
 ベキヲ信スレハ十リ伏テ惟フ閣下此榮譽アル  
 内閣ニ入り司法行政ノ大權ヲ統督ス又スヤ從  
 来ノ秕政ヲ整革シ情弊ヲ掃蕩シ以テ司法部ノ  
 面目ヲ一新セラレ、ノ日遠キニ非カハ信ス  
 然リ而シテ事ニ緩急ノ別アリ業ニ輕重ノ差アリ  
 リ司法制度ノ刷新ニ就テモ緩テトモ重大ニ  
 急テトモ輕少ナルモノアリ閣下ノ英明固ヨ  
 リ此間ニ遺算ナカルベシト雖トモ凡ソ事物變  
 革ノ際ニハ或ハ過激ニ失シ其輕重緩急ヲ誤ル

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄

ナキヲ保セス是レ小職カ今マ最モ重且急ナリ  
ト信スルニ三ノ事項ニ就キ聊カ鄙見ヲ陳ベ  
下ノ御参考ニ資セント款スルノ已ムヲ得サ  
所以ナリ

第一 司法官ノ淘汰ハ公平ノ處置ト慎重ノ  
檢衡ヲ要スル事

老朽判檢事ノ淘汰ハ司法部刷新ノ一大急務ナ  
リ然リ而シテ之ヲ實行スル公平ノ處置ト慎重  
ノ檢衡ニ依ルニ非ズンハ成効期ニ難シ顧フニ  
從來ノ當局大臣カ屢之カ實行ニ着手シ而カモ  
皆其終局ノ効果ヲ收メ得サリシ所以ノモノ畢  
竟之カ為ナラシ夫レ處置ノ公平ト否トハ當局  
大臣ノ操志如何ニ在リ今復タ多言スルヲ要セ

又唯慎重ノ檢衡ニ在リテハ極メテ難事ナリ當  
局大臣如何ニ明敏ナリト雖トモ全國中ニ配置  
セル判檢事ノ良否ヲ甄別シ優劣ヲ判定スル  
得シ勢ト控訴院地方裁判所ノ監督官ニ諮ハサ  
ルヲ得ス故ニ此等ノ監督官ハ各其配下ノ判檢  
事ニ就キ慎重ノ檢衡ヲ為シ得ルノ人ヲ得ルヲ  
要ス若シ其人ヲ得スレテ檢衡ノ慎重ナラシ  
望ム猶ホ木ニ椽ヲ魚ヲ求ムルヨリモ難シ論シ  
テ茲ニ至ラハ從來ノ淘汰ニ功ヲ奏セザル所以  
蓋シ思ヒ半ハニ過クモノヤラン然ラハ則チ  
老朽者ノ淘汰ニ先チ此等監督官ニ其人ヲ得ル  
ノ法如何試驗法ニ依ラシカ新ニ人ヲ採ル固ニ  
之ニ依ルベシト雖トモ左官ノ人ニ適用スルハ

難シ擧擢法ニ依ランカ僅少ノ人ヲ擧クル可ナルモ多数ノ人ヲ擧ク止鵠ヲ誤ルキヲ保セス已ニナクンハ唯一ノ副選法ニ依ランノミ夫レ副選ノ法タルヤ各身知ル所ノモノヲ擧ケ情實行ハレ易ク私曲防キ難キニ似タリト雖トモ其中綽々言フベカラサル餘裕アリテ存ス況ニヤ監督權限ヲ明カニシ責任ヲ負ハシムルニ於テオヤ故ニ大臣先ツ院長檢事長ヲ選任シ院長檢事長ニ所長檢事正ヲ推舉セシムベシ然ルトキハ大臣ノ親ヲ選任スル所ノモノハ七控訴院長及檢事長ノ十四名ナリ此等ノ人タル大臣ノ最モ直接最モ樞要ノ機關ニシテ老練統御ノ術ニ長シ公明正大識見伎倆共ニ衆ノ威服スル所ノ

モノタラサルベカラス況ニヤ順序經歷ヲ要ス其人ヲ得ル亦容易ノ業ニ非ナルナリ然レトモ全國千五百有餘名ノ判檢事本ヨリ僅々其十四名ヲ選抜スル亦敢テ為シ得ベカラサルコトニ非ナルベシ況ニヤ現在ノ院長檢事長ニシテ風ニ司法部ノ輿望ニ副ッ好適任者ノ在ルアリ實際全部更迭ノ必要ナキニ於テオヤ既ニ院長檢事長ニ其人ヲ得又命シテ責任ヲ以テ所長檢事止リ推舉セシムベシ然ル後此等監督官ニ諮ルニ各其配下判檢事ノ良否優劣ノ銓衡ヲ以テス銓衡自ラ慎重ナルヤ也セリ夫レ既ニ銓衡慎重ナリ公平ノ處置ヲ以テ之ニ望ム海汰又易々ナル耳方針茲ニ一決ス英折以テ之ヲ實行ニ遲疑

スル勿レ若シ蓬萬時日ヲ経過セシカ或ハ恐ル  
徒放辟邪其罅隙ニ乘スベキヲ嚴懲遠カラス前  
内閣未路ニ於テ曾補法相ノ行ヒタル淘汰ニ在  
リ閣下若シ過去ノ失政ハ将来ノ龜鑑タルヲ思  
ヒ真ニ司法部ノ為ノ老朽ヲ淘汰セシト欲セハ  
須ラク公平ノ處置ト慎重ノ鈐衡以テ之ヲ折行  
スベシ區々ナル小權道者々タル小策略以テ今  
日ニ施ス所以ニ非ハルナリ

第二 司法官ノ外部ヨリ拔擢セシニハ内部  
ノ秩序ヲ紊乱セサル限度ニ於テスル事

司法官ノ淘汰拔擢ハ規定ノ範圍内ニ於テスル  
ト同時ニ司法部ノ秩序ヲ紊乱セサル限度ニ於  
テスルヲ要ス是レ當局者ノ深ク意ヲ注カサル

カカラハル所ナリトス頃者風説ノ傳フル處ニ  
據レハ近來辯護士ニシテ司法官ヲラシト運動  
スル者甚ク多ク當局者亦其意ヲ容レ奉ニハ拔  
擢直ニ要職ニ補セシトスルノ議アリト風説ノ  
傳フル處真乎偽乎未ク容易ニ断スベカラスト  
雖トモ若シ其レ之ヲシテ真ナクシメハ或ハ恐  
ル司法部ノ秩序是ヨリ紊乱ニ甚クシキ弊害ノ  
生スベキヲ惟フニ司法官ノ職制タルヲ所謂一  
階級制ニシテ其進級補<sup>職</sup>先任順序ニ依ルヲ  
原則トシ拔擢ハ其例外ナリトス是ヲ以テ補欠  
ノ必要アルトキハ次任者ヲ以テ之ニ補職シ次  
任者ニ適任ノ者ナキ場合ニ於テ始メテ拔擢ヲ  
行フハ妥當ノ順序ニシテ又從來之ニ依リテ自

法部ノ秩序ヲ維持シ来リタル制ナリト又然ル  
 ニ今在野辯護士ヲ拔テ直ニ要職ニ補スルトセ  
 ンカ是レ明カニ司法部ノ階級制ヲ打破スルモ  
 ノニ非スレテ何ヲ論者或ハ云ハシ新舊過渡ノ  
 時代ニ在テハ強テ先任順序ニ依ルヲ要セ又一  
 定ノ資格ヲ具ヘ一定ノ経歴ヲ有シタルモノナ  
 ランニハ朝鮮ノ區別ヲ論セ又其器ニ從テ其地  
 位ヲ授ケル何ノ不可カ之レアラレト然リ單ニ  
 規定ノ範圍内ニ於テ拔擢シ得ルノ一熟ヨリ立  
 論ニタラレニハ定ニ其言ヲ如シト雖トモ司法  
 部ノ秩序ヲ維持スルノ熟ヨリ云ハハ拔擢ハ内  
 部ヲ措テ外部ヲ先ニスル能ハサルヲ奈何セシ  
 況レバ内部ニ全ク其人ナシト云フヲ得ザルニ

於テオヤ姑ク一步ヲ譲リ内部ニ全ク其人ナキ  
 ヨリ外部人士ヲ拔擢スルトスルモ辯護士トシ  
 テ令名アルモノ司法官トシテ又テ又テ適任ナリ  
 ト云フヲ得又若シ要職ニ拔擢セラレタル者不  
 幸ニシテ其器其職ニ堪ヘサルカ又ハ其配下ト  
 同等若クハ其以下ノ人物タリトセハ如何否ニ  
 後進者ヲ鼓舞獎勵シ司法事務ヲ發揚スル能ハ  
 サルノミカ偶々以テ競奔卑屈ノ弊ヲ助長シテ  
 ランノミ持ニ知ラズ辯護士ニシテ司法官タラ  
 ント望ムモノ或ハ碌々ノ徒ニ非サルナキカラ  
 何ントナレハ辯護士トシテ相應ノ信用アリ收  
 入アルモノ何ヲ苦ンデカ薄俸ノ司法官タルヲ  
 望ムレ是ヲ以テ外部人士ヲ推薦センニハ始メ

ヨリ要職ニ補セス先ッ始ク下級ヨリシ而シテ  
司法官トシテ學識伎倆操行等共ニ衆ノ許ス所  
トモノタルニ於テハ直ニ拔擢其器ニ從テ其地  
位ヲ授ケルモ未ク邊キニ冰ナルヲ信ス然ルヲ  
其秩序ヲ維持スルニ努メス單ニ功ヲ急速ニ收  
メントスルトキハ結局司法部刷新ノ自納ヲ達  
セタルノミナラス却テ司法部内ノ紛擾ヲ未カ  
シメシ

第三 司法部ノ經費ヲ増額シ司法官ノ俸給  
ヲ學フスルハ今日ノ機ヲ失スベカラザル事  
近來司法部ニ仕官セシトスル者年々其數ヲ減  
シ為メニ司法部職員ノ缺乏ヲ告ケルノ傾向アリ  
畢竟スルニ從來司法官ノ地位俸給ハ其職責

ノ重大ナルニ拘ラヌ他行政官ニ比スレハ低ク  
シテ且薄ク拔擢進級ノ途又狹限ニ失スルニ  
職由セズンバラス之ガ改正意見ニ至テハ小  
職等曾テ建議スル所アリシニ曩ノ當局大臣ニ  
於テモ此ニ採ル所アリ其改正案成レリト聞ク  
閣下又此議ヲ容ルニ各ナラザルヲ信ス故ニ  
今復ク歎々セサルベシト雖トモ之ガ實行ニ至  
テハ一日モ速カラントヲ望マザルヲ得ズ  
思フニ良案好法アリト雖トモ事經費ニ關スル  
モノハ豫算案ノ協賛ヲ經ナルベカラヌ曩ノ當  
局者カ其實行ニ遲マシタル所以トモノ畢竟之  
カ為ナラン今ヤ國事多端各省競フテ經費ヲ増  
大シ歳入殆レト歳出ニ應スルコトヲ得ヌ官衙

経費動モスレハ削減セラル、時増費ノ協  
 賛ヲ得ル容易ノ業ニ非ナルベシト雖トモ之ヲ  
 求ムルニ正當ノ理由ヲ以テシ之ニ協ルニ必要  
 ノ事情ヲ以テシタランニハ點ヲ協賛ヲ得ル能  
 ハナルノ理アラシヤ況シマ我賦政全ク之ヲ容  
 ル、ノ餘地ナシト云フニ非ナルニ於テオマ然  
 レトモ凡ソ物時機未スルニ非スレハ成効期  
 シ難シ今ヤ改正條約實施準備ニ際シ百般ノ制  
 度刷新ヲ告クルノ秋就本最モ重且急ナルモノ  
 ハ我司法制度ナリトス此時ニ當リ前項改正ニ  
 伴フ費用ハ勿論從來経費ニ制セラレ司法機關  
 ノ運轉ヲシテ充分ナラシムル能ハサルモノ、  
 増費ヲ請未スルハ頗ル時宜ニ適中ニシタルモノ

ナルヲ信ス若シ躊躇遠巡今日ノ機ヲ失セシカ  
 我司法部ノ刷新得テ望ムベカラス夫レ内俊秀  
 ノ進仕ヲ見ル能ハス外増費ノ協賛ヲ得ル得  
 ス我司法部ノ意氣竟ニ銷沈シ去テ他日或ハ邦  
 家ノ面自ヲ支持スルニ若シムノ白キヲ保セ  
 又是レ一日モ速ニ経費ヲ増額スルト止ニ司法  
 官ノ地位ヲ高フニ俸給ヲ厚フスルノ舉ニ志テ  
 ラレレコトヲ望ム所以ナリ  
 以上ハ唯刻下ノ所感ヲ述ベタルニ過キス言或  
 ハ体ヲ為サバアルアラレ乞フ蓋碎ラ然ノス微意  
 ヲ採ラレンコトヲ頓首謹言

明治三十五年八月十日

盛岡地方裁判所

検事正 義幹





例法世入系義麻教樹下